

推進校は、生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法を開発する等、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。

★★

実践事例

渋谷区立幡代小学校

【実践の概要】

第1学年が生活科で学校担当獣医師からウサギのことや飼育の仕方を教わり、順番で10回ほどお世話をしました。

お世話をしながら、気が付いたことをまとめて、学校公開の日に発表しました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

生活科の授業で、ウサギをお世話したことや気が付いたことを、友達、保護者の皆さんや学校担当獣医師に発表し、学校担当獣医師から「よく気が付いたね」とたくさん誉めていただきました。

保護者に対しても、学校担当獣医師から動物飼育の意義についてお話いただきました。



ウサギと触れ合う第1学年の児童



【児童の反応】

○9がつ10にち

うさぎはおおごえがにがて、かたいものをたべる、きれいなばしょがすき、いきなりだっこされるのがにがて

○1がつ16にち

ひげがたくさんはえている、おしりのほうはまっ白、からだのほうはくろとグレー、耳の中はうすだいいいろ



実践事例

中野区立上鷺宮小学校

【実践の概要】

- 第2学年を対象に、全クラスでモルモットの飼育に取り組みました。クラスで名を考え、ポスターを作ったり、第1学年の児童に紹介したりする活動に取り組みました。
- 飼育委員会が中心となり、モルモットとの触れ合い体験を全学年対象で実施しました。写真撮影やえさやり体験なども同様に実施しました。



第2学年の児童の飼育の様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 子供たちがモルモットについて知りたいことを挙げ、学校担当獣医師に伝え、授業で御指導いただきました。
- 第2学年の児童は、モルモットと触れ合う際に、どのように抱っこをすればよいか、なでるときやえさをあげるときの注意点など、学校担当獣医師からアドバイスを受けました。モルモットの飼育の引き継ぎでは、学校担当獣医師から学んだことを、第2学年の児童が第1学年の児童に伝えることができました。

【児童の反応】

- モルモットを飼育し始めてから、他の動物や植物など「いのち」について考え、大切にする児童が増えました。
- 飼育を通して、友達と協力して作業に取り組めるようになりました。また、どうすれば効率よく作業を進められるかを考える計画性が身に付いてきました。



実践事例

八王子市立宇津木台小学校

【実践の概要】

- 第1学年において、9月にウサギの「動物ふれあい体験」を行いました。
- 第2学年において、9月にウサギと犬との「動物ふれあい体験」を行い、11月の学習発表会では、動物について発表しました。



第1学年 ウサギとの触れ合いタイムの様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師からは、クイズ形式で、ウサギの耳、目、鼻、口、歯の特徴を教えてくださいました。
- 学習発表会では、第2学年の児童がウサギについて学んだことをまとめ、第1学年から第6学年までの児童、第2学年の保護者の前で発表しました。



第2学年 学校担当獣医師からウサギについての話を聞く

【児童の反応】

- 生き物に触れ合う体験の少ない児童が多いため、実際に生きている動物と触れ合うことで、温かさや柔らかさを体験し、喜びを感じることができました。
- 命を大切にしようという気持ちが高まり、飼育小屋にいるウサギが元気かどうかを今までよりも頻繁に観察に行ったり、気にするようになったりする場面が見られました。



実践事例

青梅市立第七小学校

【実践の概要】

第1学年…ウサギと自分たちの心音を比較する触れ合い授業

第2学年…ウサギと自分たちの心音を比較する触れ合い授業

国語「どうぶつ園のじゅうい」の学習内容と関連させた話

第3学年・第4学年…ウサギと自分たちの心音を比較する触れ合い授業

ウサギと犬に触れ合いながら、様々な動物の「命」を感じる触れ合い授業

理科「私たちのからだと運動」の学習内容と関連させた話及び触れ合い体験

第5学年…ウサギと自分たちの心音を比較する触れ合い授業

理科「命のつながり」・「体のつくりと働き（6年）」の学習内容と関連させた話

第6学年…理科「かけがえのない地球環境（SDG s に関すること）」の学習内容と関連させた話

獣医師という仕事を通して、夢や仕事など自己のキャリアについて考える話



第3学年・第4学年の触れ合い授業の様子
上の写真はウサギの心音を聴く様子
下の写真は、犬と触れ合う様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- ・最初の学校担当獣医師との打合せの時に、小規模校（全校で47名の児童）ということもあり、全ての学年の児童とかかわる授業ができるかどうかの打診をいただき、当初の計画を修正し、全学年で実施しました。
- ・授業計画を立てる際に、「ウサギの体のしくみ（歯、耳、目、尻尾、寿命）」や「ウサギの生活（食べ物など）」について、学校担当獣医師からお話いただいた後に、ウサギの心音と人間の心音を比べる、命の授業（触れ合い体験）を行うことをベースにした授業とすることを確認しました。さらに、各学年に応じた他教科等との学習内容と関連させ、ウサギとの触れ合い体験を「活かす授業」となるように工夫しました。

【児童の反応】

- ・ウサギの心臓の音は、自分の心臓の音よりもすごく速いことが分かった。
- ・学校のウサギも、元気な時の様子を見ておくと、病気になった時に気が付けることが分かった。
- ・ウサギの血管がはっきり見えて、ウサギも人間と同じように血液が流れているのだと思った。



実践事例

小平市立小平第九小学校

【実践の概要】

- 第1学年及び第2学年で触れ合い教室を行いました。
- 第2学年の児童が飼育環境についての調べ学習を行い、学校担当獣医師及び第1学年の児童への発表し、飼育体験につなげました。



触れ合い体験
学校担当獣医師への質問をしている

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 第2学年は学校担当獣医師の御指導の下、触れ合い体験、飼育方法・飼育環境についての調べ学習、第1学年への発表を経て、実際に学級でウサギを招待して飼育体験をする取組を行いました。
- 第1学年は、ウサギの生態について学校担当獣医師の講話及び第2学年の発表を聞いたことや、触れ合い体験を経験したことで、次年度への見通しをもつことができました。
- 特別支援学級「ポプラ学級」では、各学級で飼育しているウズラ、モルモット、ウサギ、カメ、熱帯魚の様子を通常学級の第1学年に発表する「九小動物園」開催しました。

【児童の反応】

- 各活動において、児童は動物を身近に感じ、大切にしたいという気持ちが芽生えていました。また、その気持ちを飼育環境の改善やお世話の際の正しい接し方で表せることに気が付くことができました。